

# あっ、図書館

「これよんで!」の本、あります。

読み聞かせて、どうするの？

どうやって絵本を選んだらいいの？

「子どもと本」・「子育てと本」についての

ご相談に、児童サービス担当司書が

お答えします。

なに よむ？

おはなしの せかいへ

4~5歳から



## 『はらぺこ あおむし』

エリック・カール/さく もり ひさし/やく 偕成社



日曜日の朝、ちっぽけなあおむしがうまれました。

おなかは ペっこぺこ。

そこであおむしは、りんご、ナシ、スモモ、イチゴ、オレンジ、さらにはケーキやアイスやソーセージまで食べ続けます。

そうしてどんどん大きくなり、

やがてあおむしではなくなります。

食べること、大きくなることの喜びを感じられる絵本です。

## 『かいじゅうたちのいるところ』

モーリス・センダック/著 じんぐう てるお/やく 富山房



あるばん、マックスは大あばれ。

とうとうおかあさんに晩ごはんぬきで寝室に放り込まれてしまいます。

すると寝室ににょきりにょきりと木が生えて、波が来て、

かいじゅうたちの住む島へ。

やりたい放題どんなことをしても、家を飛び出しても、

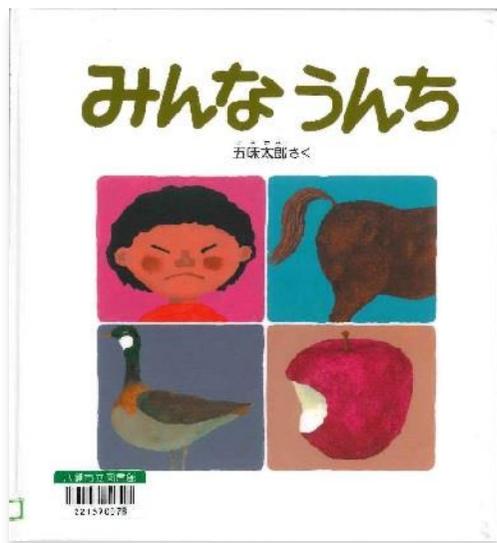
戻る場所はちゃんとあって、あたたかい。

ただ解放感あふれて愉快なだけではなく、安心感をそっと感じ取れる

絵本です。

『みんなうんち』

五味 太郎/さく 福音館書店



生きているなら絶対に欠かせない大切なもの。

生きるためには食べて出す！

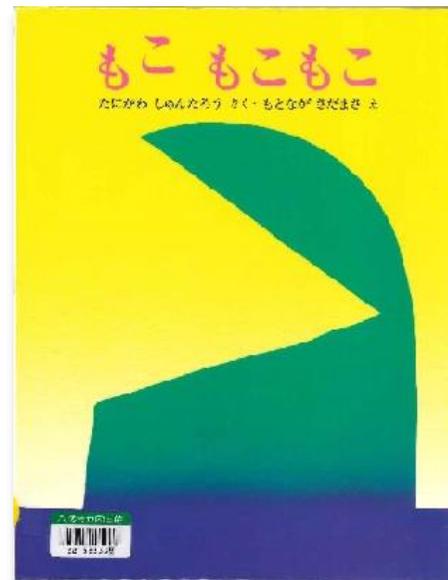
ほら、ぞうも、くじらも、お父さんも！

みんなうんちしてますよ！

ウンチをしてるから生きているんです。

『もこもこもこ』

谷川 俊太郎/作 元永 定正/絵 文研出版



「もこ」と地面が盛り上がり、へんテコな何かがあらわれた。

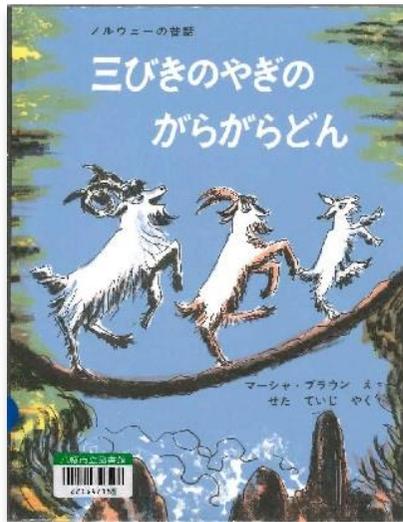
「もこもこ」「によき」とのびあがり、「ぱく」と食べてふくらんで…。

鮮やかな絵と音の響きが印象的な絵本。

子どもと一緒に読むと、色々な反応をかえてくれます。大人にはよくわからなくても、子どもの心と体の奥の奥に、この絵本は届くようです。さあ、お子さんはどんな反応をしてくれるかな？

## 『三びきのやぎのがらがらどん』

マーシャ・ブラウン/え せた ていじ/やく 福音館書店



小さいやぎと中くらいのやぎと大きいやぎのがらがらどんたちは、美味しい草を食べて太ろうと山にでかけます。しかし、途中の橋の下にはおそろしい大きなトロールが！！がらがらどんたちは無事に山にたどりつけるのでしょうか。

子どもたちは、成長の過程で様々な困難に出会います。その姿は、まさに「がらがらどん」と同じです。困難を乗り越えていけるように、大きくなってほしいですね。

## 『はじめてのおつかい』

筒井 頼子/さく 林 明子/絵 福音館書店



はじめてひとりでおつかいにでかけた、みいちゃん。みちでころんでしまったり、お店の人に気づいてもらえなかったり、なかなかすんなり牛乳を買うことができません。子どもたちはみいちゃんに自分を重ね「じぶんもみいちゃんみたいにおつかいしたい！」なんて思うかもしれませんね。